

エコアクション21 (EA21)

環境経営レポート

2018年度
(2018年2月～2019年1月)



作成 : 2019年 7月 30日



承認	作成
岩崎 (厚)	岩崎

I. 組織の概要及び略歴

会社概要

1. 事業所名及び代表者

株式会社 小名木川ギヤー
代表取締役社長 岩崎 厚三

2. 所在地

本 社：東京都江東区猿江1丁目2番7号

TEL 03-3631-0037(代)

FAX 03-3635-0868

E-mail ong@green.ocn.ne.jp

千葉工場：千葉県茂原市萱場1525番地

TEL 0475-34-4536(代)

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

大網分工場：千葉県大網白里市大網1803番地

TEL 0475-73-1816

FAX 0475-73-1816

3. EA21責任者・連絡先

管理責任者 取締役副工場長 佐藤 博
連絡先 環境事務局 担当課長 岩崎 洋明

TEL 0475-34-4536(代)

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

E-mail h_iwasaki@onagigawa.co.jp

4. 事業の規模

従業員数 79名 (2019年 1月)

売上高 2080百万円 / 2019年 1月期

敷地面積 本社 366㎡

千葉工場 7,508㎡

大網分工場 1,468㎡

床面積 本社 195㎡

千葉工場 3,841㎡

大網分工場 1,282㎡

5. 会社沿革

当工場の沿革を次に記述する。

大正9年 東京本所区錦糸町に岩崎鉄工所として創業。諸機械及び歯車の製作を開始。

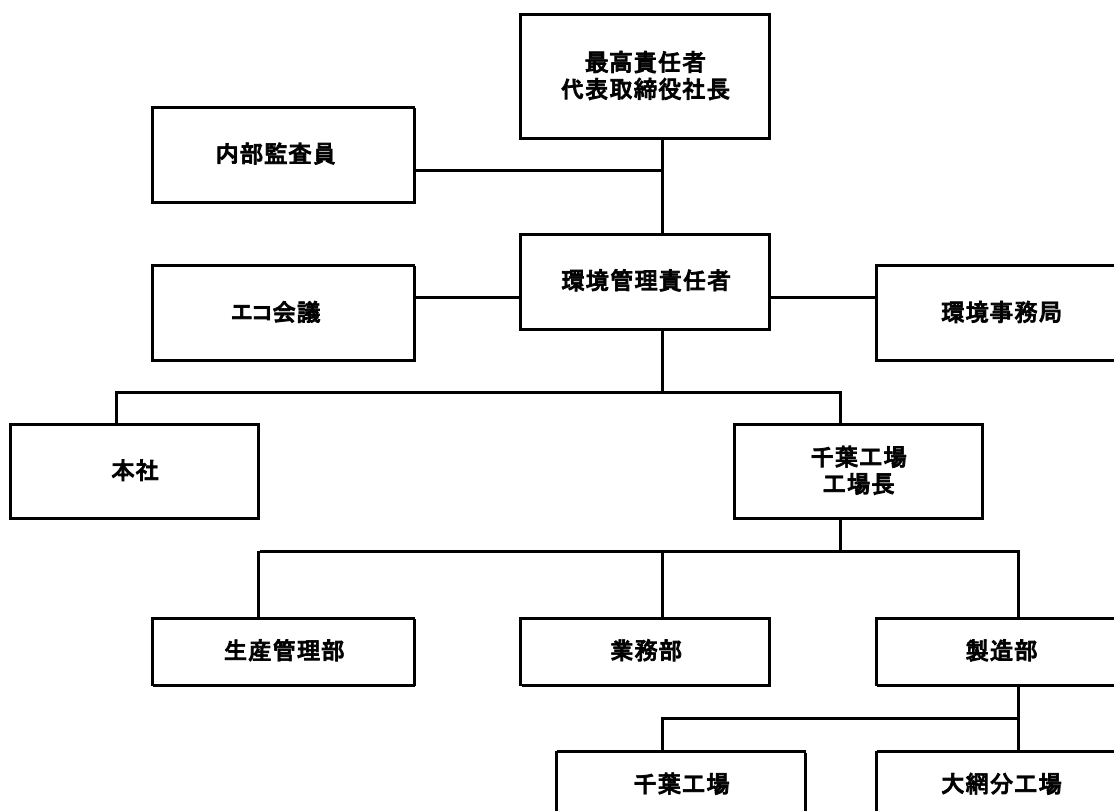
昭和6年 深川区千田町に移転。小名木川ギヤー製作所に社名変更。歯車専門メーカーとなる。

- 昭和19年 深川区猿江町に、本社、工場を移設。
- 昭和24年 合資会社小名木川ギヤー製作所として法人化。資本金50万円。
- 昭和50年 株式会社小名木川ギヤーに改組。資本金2,000万円。
- 昭和56年 千葉県茂原市に千葉工場を建設。
- 昭和61年 製造業務をすべて集結。
- 平成15年 ホームページ公開(URL://www.onagigawa.co.jp/)。
- 平成16年 千葉県山武郡大網白里町に大網分工場開設。
- 平成21年 環境マネジメントシステム、エコアクション21 認証・登録。
- 平成21年 品質マネジメントシステム、ISO9001-2008登録。
- 平成23年 大網分工場第3工場新設。
- 平成25年 大網分工場住所名変更。
千葉県大網白里市大網1803番地。
千葉工場デマンドコントロール設置。
- 平成27年 千葉(第1・第2・第3)工場内の水銀灯照明をLED照明に変更。
- 平成30年 千葉工場第4工場新設。

6. 現在の事業内容

歯車製造業として材料(主として鋼材)調達から、機械加工、熱処理(取引先に外注)、表面処理(取引先に外注)、梱包、輸送まで一貫した事業を行なっている。

7. (1) 環境組織図



(2) 責任と権限

社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 環境レポートの発行責任者
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置 2. 社長に対し、環境経営システムの実績報告 3. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者 4. 環境レポートの作成責任者
EA21事務局	1. 環境経営システムの手続き等を遂行 2. 契約業務等事務処理、環境活動からのデータ収集
部門長	1. 部門の環境活動の責任者 2. 自部門の実施状況を日常的に点検し、改善を指導する
工場長	1. 工場における現場指揮及び実績管理 2. ライン運転、製造、保管及びEA21活動現場責任者
従業員	1. 自部門の目標を実行し、改善に努める

II, 対象範囲

1. 対象事業所： 本社,千葉工場,大網分工場
2. 事業活動： 歯車の製造

III, 環境方針

基本理念 **私たちの地球を守ろう！**

当社は、地球環境保全が全人類にとって最大重要課題であることを深く認識し、事業活動のすべての面で環境に配慮した行動に努め、同時に地域社会との調和を保ちながら事業を推進・発展させていくことを目指します。

基本方針

1. 歯車製造の事業活動を通じて環境経営システムを構築し、人と地球に優しい事業活動の推進と環境負荷の低減に努めます。
2. 環境に関する法規制を遵守し、環境汚染の防止と環境保全に努めます。

3. 当社が行なう環境活動は、以下を重点的に行っていきます。
 - 1) 工場、事務所内での省資源・省エネルギーの取り組み。
 - 2) 生産活動にともなう加工不良、廃棄物、排出物の削減。
 - 3) 調達品のグリーン購買。
 - 4) 化学物質削減、若手社員の技術力向上及び技術伝承。
 - 5) 水道消費量の削減、社員の使用量の無駄の防止。

4. 本方針に基づき環境目標を定め、環境活動計画に従って自主的かつ積極的な活動を展開するとともに、必要があれば環境方針の見直しを実施します。

5. 本方針を従業員および協力企業に周知するとともに、当社の活動を示した環境レポートを作成し、社外に公表します。

2010年 1月 27日
株式会社 小名木川ギヤー
代表取締役 岩崎 厚三

V. 2018年度における環境目標とその実績

1. 平成30年度環境活動実績

項目	単位	目標値	実績値	達成率	コメント
電気使用量(本社)	kWh/年	10,825	10,499	97%	昨年の実績値の1%減の設定をいたしました。ほぼ目標どりの結果を維持しました。
電気使用量(千葉工場)	kWh/年	1,676,500	1,595,835	95%	昨年の使用量(1,541,324)より4%多い使用量でしたが目標値以下の結果が出ましたことは、節電の徹底が生産効率に関してよい結果があらわれたと思います。
	kWh/生産量	431.87	413.96		
電気使用量(大網分工場)	kWh/年	259,000	258,738	99%	昨年の使用量(248,185)より4%多い使用量でしたが目標値10%増加の通りの結果が出ました。節電の徹底が生産効率に関してよい結果があらわれたと思います。
	kWh/生産量	66.72	67.12		
電気使用量(全社合計)	kWh/年	1,946,489	1,865,072	96%	本社・千葉工場・大網分工場に関して使用量の削減の効果が見られたと思います。
	kWh/生産量	501.41	483.81		
灯油使用量	L/年	42,901	27,013	63%	昨年の使用量(35,165)より23%少ない使用量でした。目標値は22%の増加を見込んでいましたが、実績値は目標値の63%とすくなく、節約の効果が表れたと思います。
	L/生産量	11.05	7.01		
軽油使用量	L/年	42,685	35,166	82%	昨年の使用量(35,571)とほぼ同じ使用量でした。目標値20%の増加を見込んでいましたが、実績値は目標値の82%とすくなく走行時の燃料の節約運転の効果が表れたと思います。
	L/生産量	11.00	9.12		
ガソリン使用量	L/年	27,521	24,765	90%	昨年の使用量(22,934)より8%多い使用量でした。目標値は20%の増加を見込んでいましたが、軽油と同じく90%とすくなく、走行時の燃料の節約の効果が表れたと思います。
	L/生産量	7.09	6.42		
燃料費(ガソリン・軽油・灯油)	L/年	113,107	86,944	77%	今年度の燃料の消費量は、昨年度に比べ全体的に節約の運転を励行した成果の結果と思います。
	L/生産量	29.14	22.55		
温室効果ガス排出量(注)	Kg-CO2/年	1,027	1,086	125%	昨年の使用量(868)より25%多い排出量でした。目標値の18%の増加量を見込んでいましたが、実績値は5%オーバーする結果となりました。
	kg-co2/生産量	0.26	0.28		
LPG使用量集計	KG	1,564	1,204	77%	使用量は昨年の85%でした。各自使用する時の改善が徹底されたと思います。
	KG/生産量	0.40	0.31		
水使用量	m3/年	1,380	1,505	109%	昨年の使用量(1,323)より9%増加しました。目標値は5%増加の数値を見込みましたが、実績値は109%となりました。
	L/生産量	0.36	0.39		
一廃排出量	Kg/年	25,871	21,054	81%	昨年の排出量(21,559)より3%減少しました。今年度の目標値は20%増加の数値を見込みましたが、実績値は81%となり、節約の効果がみられました。
	Kg/生産量	6.66	5.46		

項目	単位	目標値	実績値	達成率	コメント
産廃排出量	Kg/年	39,270	35,580	91%	今年度は昨年実績値とほぼ同じ量であり、目標値は10%増加を見込みましたが、実績値は目標値の91%と減少の結果となりました。
	Kg/生産量	10.12	9.23		
生産量	t/年	3,882	3,855	99%	昨年実績の10%増の目標に対して、ほぼ同じ結果となりました。
化学薬品管理	%	100	100	100%	鉛製の道具を作製するための物。歯車製造のための作業油。
グリーン購入	%	100	100	100%	購入カタログによるグリーン製品マークを購入する。

2. 主要な環境活動の内容

No.	項目	目標値	改善活動の内容
1	電力使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消灯(月4回程度巡回点検)
			②エアコン適温化(夏季:28℃、冬季:20℃)
			③電気ストーブ周りの適温化(足元温度:25℃以下)
			④エア配管系のエア漏れ点検修理
2	灯油使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消火(月4回程度巡回点検)
			②灯油ストーブ周りの適温化(室温:20℃以下)
			③洗浄油再利用の活性化
3	ガソリン・軽油 使用量	前年度実績 3%低減	①輸送ルートの事前検討励行(運行管理者による日常指導)
			②フォークリフト省エネ運転励行(管理者注視による指導)
			③社有車の計画的運行
			④省エネ社有車の導入
4	一般廃棄物排出量	前年度実績 5%低減	①梱包緩衝材をリユース材へ変更
			②コピーの縮減、裏紙利用促進
			③分別励行による可燃物縮減
5	産業廃棄物排出量	前年度実績 3%低減	①廃油リサイクル
			②産業廃棄物の適正処理
			③工事排出物の業者指導
			④破損/パレット返却励行
6	LPG使用量	前年度実績 3%低減	①ガスストーブ周りの適温化(室温:20℃以下)
			②手洗い等のお湯使用時の節約
7	総上水量	前年度実績 5%低減	①蛇口付近に節水励行札の取り付け
			②朝礼等にて啓蒙活動
8	調達品のグリーン 購買	事務用品に 適用購入品 100%	①注文時にグリーン用品を指定
			②納入品のグリーンマーク確認

3. 環境目標の結果

二酸化炭素(CO2)の排出量は前年度より25%上回りました、目標値を前年度実績から18%UPを設定しましたが、実績値は目標値を5%をオーバーしました。

各項目の使用量の中で、軽油・灯油・一般廃棄物・水使用量については、昨年より減少を達成したことは、社員一同の環境に対する意識が高まっているようです。

その他の項目につきましては生産量のUPに伴い増加しておりますが、前年度の生産量の増加との比較については目標値をほとんど下回る良い結果となりました。

Ⅶ, 環境保全活動の取組み結果の評価と次年度取組みについて

1. 2018年度の目標に対する評価と次年度の取組み

二酸化炭素排出量:	目標値を達成することが出来ませんでした。生産高は上昇しましたが、電力は昨年度比4%増加・燃料費は昨年度比3%増加の影響があり使用量が増加したことが影響した結果、数値が高くなったと思います。次年度には削減を目指すように努力する。
電力使用量:	目標値を下回ることが出来ました。生産量は昨年比109%と増加をし、使用量も103%に上昇しましたが、今年度から無駄の照明等は率先して消す運動と作業効率の改善が大きな成果となり節電効果が表われたと思われれます。次年度についても継続していくことに努力する。
燃料使用量:	目標値を下回ることが出来ました。生産量は昨年比109%と増加をし、使用量も103%に上昇しました。ガソリンの使用量は前年度から約10%多くなりましたが、軽油の消費量が1.5%の削減に収まりました。今年度も良好な結果を表したと思われれます。次年度も無駄な運転をしないように努力する。
灯油使用量:	目標値を達成することが出来ました。今年度は、寒暖の変化が激しかったのに使用方法の節制が浸透してきた結果で使用量が前年度の12%減少しました。次年度も継続して使用量を削減するように努力する。
LPG使用量:	目標値を達成することが出来ました。無駄な暖房・手洗い等の使用に注意をするような習慣が結果を良好したと思います。次年度については
一般廃棄物排出量:	実績値は昨年の数値より3%を下回る結果となり、目標値の達成をすることが出来ました。
産業廃棄物排出量:	今年から、排水施設の汚泥処理作業の定期化の開始に伴い流出のヘドロなどの増加があり、前年度を上回ってしまいました。
総上水量:	昨年度までは排水量のデータを記録してきましたが、今年度から上水量のデータに変更しました。

化学物質管理:	作業油の管理は、担当者の購入及び排出を監視することを重点項目にする。
グリーン購入:	購入に関しては、カタログ等のグリーンマークを基本に注文を徹底している。

2. 次年度の取組み（中期経営環境目標）

項目	単位	2018年度 (実績値)	2019年度 (目標値)	2020年度 (目標値)
電気使用量(本社)	kWh/年	10,499	105%	110%
			11,024	11,549
電気使用量(千葉工場)	kWh/年	1,595,835	105%	110%
	kwh/生産量		414	400
電気使用量(大網分工場)	kWh/年	258,738	105%	110%
	kWh/生産量		70	64
電気使用量(全社合計)	kWh/年	1,865,072	105%	110%
	kWh/生産量		510	467
灯油使用量	L/年	27,013	105%	110%
	L/生産量		8.63	10.70
軽油使用量	L/年	35,165	105%	110%
	L/生産量		10.10	11.80
ガソリン使用量	L/年	24,765	105%	110%
	L/生産量		5.98	5.80
温室効果ガス排出量(注)	Kg-CO2/年	1,086,380	105%	110%
	kg-co2/生産量		282	268
LPG使用量集計	Kg/生産量	1,203	105%	110%
	kg/生産量		0.31	0.30
水使用量(全社計)	m3/年	1,575	105%	110%
	L/生産量		0.41	0.41
一廃排出量	Kg/年	21,054	105%	110%
	Kg/生産量		5.46	5.20
産廃排出量	Kg/年	35,700	105%	110%
	Kg/生産量		9.26	9.26
生産量	t/年	3,855	4,047	4,451
化学薬品管理	%	100%	100%	100%
グリーン購入	%	100%	100%	100%

1. 法規制遵守の適合性と評価

1. 環境法規制について、遵守確認の結果、問題はありませんでした。
2. 過去3年間公共機関からは是正の提案及び住民の苦情はありません。
3. 当社に適用される主な環境法規は下記の通りである。
 - * 消防法・廃棄物処理法・自動車NoxPM法・自動車リサイクル法
 - * パソコンリサイクル法＝資源有効利用促進法
 - * フロン回収破壊法＝フロン排出規正法(定期点検)

2. 工場立地法について

1. 法規制遵守の適合性評価

- | | |
|---------|--|
| (1)届出対象 | 敷地面積9,000㎡以上、又は、建築面積3,000㎡以下。 |
| (2)規制値 | 敷地面積に対する生産施設の割合 40%以下
千葉工場 第1～4工場 合計2,386㎡により割合34%
大網分工場 第1～3工場 合計㎡に1,193より割合26% |
| (3)規制値 | 敷地面積に対する緑地面積の割合 10～20%以下
千葉工場 立木・芝生・植込み等 |
| (4)規制値 | 敷地面積に対する環境施設面積の割合 15～25%以下
千葉工場 上記プラス運動施設等 |

※当工場は「無指定地域」につき、上記の届出・規制値は対象外。
(建築面積が届出対象の面積であるが、同理由により届出対象外。)

3. 消防法について

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| (1) 工場壁 | 耐火材料。現状は、スレートで耐火材料として認められていない。 |
| (2) 工場周辺建築物 | 工場外壁と周囲建築物との間隔は3m以上。現状は一部3m以下のものもある。 |
| (3) 工場内機械設置 | 工場内壁と機械の間隔は3m以上。現状は一部3m以下の場所もあります。 |
| (4) 工場内消火器設置 | 工場内に消火器を必要数の設置をしています。 |

4. 利害関係者による評価

今期中(2018年2月～2019年1月)の利害関係者による指摘・評価等はなかった。

Ⅸ 代表者による全体評価と見直しの結果

生産量の増加に伴い二酸化炭素の排出量は昨年の実績値より25%の増加の結果となり、目標値18%の設定を5%上回りましたが、生産量の増加が原因で、電気使用量等の増加と思われる。また、輸送に関しては軽油・室内暖房用灯油の減少がみられるなど社員の環境に対する取り組みが徹底されてきたように見受けられます。
これからも二酸化炭素の排出量の削減に向けて進むように全員で頑張ろう！